

家畜ウシ

家畜ウシの野生原種であるオーロックスは、1627年に最後の1頭がポーランドのヤクトロウカの森で死亡して絶滅しています。オーロックスを家畜化したウシ品種が世界中で飼育されていますが、動物園で飼育されていた個体を基に絶滅の危機を回避したヨーロッパバイソンと、絶滅したとされるオーロックスは何が異なっているのでしょうか。

家畜は野生動物を家畜化したものです。家畜化とは、「動物の生殖を自己の管理下におき、管理をより強化してゆく世代を超えた連続的過程」としてとらえることができます。これは、動物集団が本来受けている自然淘汰圧の一部が人為淘汰圧によって徐々に置き換えられてゆく過程といいかえることもできます。このような連続的な変化のどこに線を引いて野生動物が家畜となったのか判断することは困難で、両者は生物学的には同じ種であるといえます。

しかし、同じ種であるにも関わらず、家畜ウシは野生動物と明らかに異なった特徴を有します。これは、家畜化が野生原種の全ての個体を対象に行われるのではなく、一部の個体群を野生から切り離して行われる人為的な行為であるということに要因があります。動物集団の有効な大きさの縮小は、潜在していた潜性遺伝的変異の顕在化を促すため、動物を飼育下で継代すると、多様な遺伝的変異が出現し始めます。さらに、人間の保護下で野生では生き残れないような変異体が生き残り、繁殖の機会が与えられることで増殖し、やがて、野生原種とは異なる特徴をもった集団として認知されるにいたるのです。これが、私たちが普段目にする家畜です。一度、家畜化され、野生集団と異なる特徴をもった家畜ウシが野生に放たれても、それは野生原種であるオーロックスではなく、再野生化した家畜ウシということになります。

これに対して、動物園で飼育されている野生動物を継代して繁殖させる場合は、集団の縮小による無意識的な家畜化を起こさないよう配慮して交配が行われています。動物園同士で動物の交換が行われているのは、そのためです。しかし、絶滅に瀕している動物を増殖させる場合、個体群が小さいことに変わりありません。野生動物の遺伝的多様性を維持したまま保存（飼育）することは、実はとても難しいのです。

家畜ウシが描かれた切手は、北米を除く様々な国々から収集されています。アジアでは、生産性を向上させるために導入されたブラーマンやホルスタインなども描かれていますが、韓牛、秦川牛、草原紅牛など地域で確立した品種がみられます。大洋州や中南米では、最近になって導入された欧州の改良品種が多く描かれているようです。欧州で成立したウシ品種は多く、イギリスでは、チリン

ガム公園牛の他、北アイルランド地方のアイリッシュ モールド、ウェールズ地方のウェルシュ ブラック、イングランド地方のヘレフォード、そしてスコットランド地方のハイランドといったイギリスの各地方で飼育されている歴史の古い品種が描かれています。イギリスではロイヤルハイランドショーという農業祭が毎年開催されていますが、その主催者である RHASS(The Royal Highland & Agricultural Society of Scotland)が 1784 年に設立しているので、その設立 200 年を記念して発行されたものと思われます。また、ジャージー種の切手がジャージー島から度々発行されています。イギリスでは、家畜育種の父と称されるロバート ベイクウェル(1725-95)が、優良個体の選抜や近親交配による近代的な家畜改良を初めて行いました。家畜に対する思い入れが、このようなウシ品種の純動物切手を発行する素地となっているのでしょう。

アフリカでは背中に瘤^{こぶ}があるゼブー系の地域品種のほか導入された欧米の品種が描かれています。ザンビアで 1987 年に発行された切手は、国連食糧農業機関 (FAO) が世界の食糧問題を考える日として制定した「世界食糧デー」に関連して発行されたもので、シンメンタール、サセックス、ブラーマン、フリーシアンホルスタインの4品種が描かれています。フリーシアンホルスタインは、日本でホルスタインフリーシアンと呼ばれている乳用種のイギリス呼称です。ザンビアはイギリス連邦加盟国であり、切手に描かれた品種からも主なウシ品種が欧米からの導入であることがわかります。マリ共和国で 1981 年に発行された切手に描かれたンダマは、遺伝的にトリパノソーマ※抵抗性があるため、アフリカ牛群の抗病性改良に広く利用されています。

描かれたウシの姿とその時期から、各国の主流のウシ品種や改良の過程を読み取ることができることも、牛切手の魅力の一つといえます。

※トリパノソーマ・・・トリパノソーマ属に含まれる原生動物で、様々な病気を引き起こす。アフリカトリパノソーマはウシに貧血、衰弱を起こすばかりでなく、種によりヒトに致死性の睡眠病を起こす。